

第3回 北秋田市保育園等の在り方検討委員会 議事録

平成 25 年 1 月 17 日

<欠席委員>

神成委員、田口委員、近藤委員

<代理委員>

丹波委員→小塚(しゃろーむ総括園長)

1. 委員長あいさつ

まずもって、新年度でありますのであけましておめでとうございます。今年は雪が来るのが早くて、今日は天気が良いですが雪国だと思っております。新しい年ですので、必ずや良い年になるであろうと思っておりますけれども、道中車でラジオを聞いてきましたら 18 年前に阪神淡路大震災が起こったということですし、3 年前には東日本大震災があり、災害が度々起こります。幸いにして大きな被害がなかったですが、いつ来るかわかりません。

今まで2回程は、状況や課題の話し合いをしましたが、今回は再編や効率的運営についてです。北秋田市全体のこれまで話し合ったことを踏まえて、構造的な問題といえますか、保育園がどの程度・どういう姿であれば良いか、これから 10 年・20 年後を想像した場合にどうあれば良いかそれぞれが考えていることをご披露願いたいと思います。それを、まとまるかどうかは分かりませんがまずは考えていることを出していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

2. 議事

1) 第2回検討委員会のまとめ

事務局	<p>資料の説明</p> <p>今年もよろしくお願いいたします。第2回検討委員会のまとめにつきましては、あらかじめ皆さんに郵送させていただいております。今お配りしましたのは、第1回・第2回議事録です。</p> <p>第1回については、様々な状況・現状の確認を行い、第2回以降に皆様の様々な意見をいただきました。その議事録の中から事務局の責任で抽出させていただきました。必ずしも全員一致ではありませんが、方向性が見いだせたのではないかと思います。最終的には提言につながっていくものと思います。</p> <p>「まとめ」ですが、文章や表現など若干の問題があるかと思いますので、これは違う、こう表現した方が良い、など意見があったら発言いただきたいと思います。</p>
委員長	この資料については、皆さん読んでいただいていると思います。
事務局	この場でなくて結構ですので、次回でもご指摘いただければと思います。今回配布した資料で追加資料がありますので説明いたします。

事務局	<p>資料 9-1 「「保育の質の維持・向上」と「保育士の確保」について」説明</p> <p>先ほど申し上げた議事録の他に、資料 9-1 について一部数字に誤りがありましたので、差し替えいたします。修正箇所は左側最下部表の公立保育所非正規職員のパーセンテージです。</p>
事務局	<p>追加資料-1 「保育園入所児童数の推移」の説明</p> <p>昨年 4 月 1 日入所申込み児童数と今年 4 月 1 日入所申込み児童数の比較</p> <p>特に 0 歳児・1 歳児・2 歳児については、保育士を何人配置するか判断する重要な数字です。</p> <p>特徴的な点として、0 歳児の入所申込みが増えています。子どもは減っているはずですが、0 歳児から保育所に預けたい保護者が増えていると言えます。阿仁合保育園、大阿仁保育園については、昨年 0 歳児の入所申込みは 0 人でした。今年度は 5 人位新しく子どもが生まれると情報がありますが、申し込みは 0 人。家庭内保育ということか、今後新規申し込みとなるかは不明です。</p> <p>各保育園の申込み状況を見ると、おおむね昨年 4 月の数字に近くなっています。最新の数字が出ましたら、都度お示ししたいと思います。</p>
委員長	<p>こちらを見ると、今現在（昨年比）28 人少ないですが、4 月になれば若干増えるかもしれないということです。産まれている子どもは間違いなく減っているのに、保育所の入所児童は増えているという理解でよろしいでしょうか。</p>
出川委員	<p>入所数が増えているということですが、入所希望する家庭の状況を見ると、何か月間かは生まれた後家庭でみていたのが、経済的理由でできるだけ早くお母さんが勤めなければ経済面等々が厳しいということです。今までは 1 年位家庭で保育していたのが、3 か月位で入所させなければならないという事情が大変増えているのではないのでしょうか。それでこのように、子どもが減っているのに入所児童が増えているという結果になっていると私たちの地域から見ると感じます。当たっている面が多いと思います。</p>
委員長	<p>私の周りだけ見れば、年間何人か妊婦さんがおり出産されていますが、育児休暇を 1 年取得する人はゼロです。2~3 か月で何故か仕事に出てくる。もう少し休んでもらっても良いのかなと。経営者の立場から言えば早く出てきた方が良いわけですが、子育てをしてもらいたいし休んでくださいと話をしているが、2~3 か月で出てくる傾向が若い人に多いです。</p>
出川委員	<p>働かなければならないという家庭事情、経済的事情では。</p>
委員長	<p>必ずしもそうではないようです。</p>

出川委員	色々あると思うんですが、若い人が家でほとんど子育てもしないのに家に居ると言うことが耐えられない気持ちも若い人にはあるようです。3 か月位になれば外に出たいと。最初は1 年位育児休暇を取りたいと思っている声もあります、半年位とか。誕生して日数がたつに従って、親御さんの方が家を早く出たいと思っている。必ずしも経済的な理由ばかりではないですが、大きい理由は経済的な面ではないかと思います。それと合わせて、若い人が早く仕事したいという気持ちと重なっているのではないかなと思います。
事務局	<p>もう一つ、真ん中の欄をご覧くださいますと、昨年4 月から今年1 月まで子どもの数が変動しております。合計 60 人近く増えております。0 歳児、1 歳児それぞれ比較していただくと分かるのですが、0 歳児は約 50 名増えていきます。年度途中の出生、首が座っている状態であればお預かりしています。産休明けの方も多いでしょう。1 歳児は7 名。2 歳児、3 歳児はほぼ変動がありません。</p> <p>0 歳児には数字のマジックがあります。4 月1 日時点の年齢ですので、年度途中で1 歳に到達しても0 歳児となります。2 年近く、0 歳児とカウントされます。待機児童は、ほとんど0 歳児です。0 歳児には保育士の数も必要ですので、調整が非常に難しいところです。各保育園経営者の皆さんも悩んでいるところだと思います。</p>
委員長	「まとめ」についてですが、言った事をまとめたようですので、そんなに突飛な言葉は書いていないと思うのですが。
事務局	お気づきの所があれば、メール等でご指摘いただければと思います。
委員長	<p>ちょっと気にかかった部分があります。(資料まとめ P3)</p> <p>「特別保育事業を複数実施するのは困難」という発言は出ていないと思うのですが。実際に複数やっているところは沢山ありますよね。これは誰か発言したのでしょうか。発言がなかったのであれば削除願います。</p>
出川委員	確認したいのですが、これがプロジェクトチームで基にして、この後の市に対する提言という形で出てくるものですか。このまとめはより重要になってくると思いますが、そことの関連はどのように考えているのでしょうか。これは、あくまでただの記録ですか。
委員長	当然、この委員会で出たものですので反映されていくものです。
出川委員	プロジェクトチームの基にこれが原案になってそのまま提言になるのですか。
委員長	そのままではないけれど、ニュアンスは含まれるかと思います。
出川委員	そうなってくると、なかった発言があったかのごとく書かれていることは非常に問題だと思います。文言の表現は非常に気を遣わなければならないと思いますが、どうお考えですか。
委員長	この個所については、「特別保育事業を複数実施するのは困難だが努力する方

	向である」など別の表現をすれば良いのでは。実際実施しているのですから。
丹波委員（代：小塚）	実際は実施していますからね。
三上委員	発言させていただきます。表現につきましては、第 2 回検討会の際に事務局から「特別保育を複数実施するのは困難が伴う」と説明をしております。それに対し委員会内で話がなかったため、このような「まとめ」になったのかなと理解しています。それから、「まとめ」の取り扱いですけれども、大きな項目を書いておりますが、議論の柱になっていくということです。一番大事なポイントとして話しておりますので、書いていることが全てではありませんし、中身はまだ修正も必要でしょう。もし過不足があるとすれば、お話をされれば有り難いと思います。
事務局	<p>資料 「第2回検討委員会まとめ」の説明</p> <p>ご指摘のとおり皆さん特別保育を実施されています。今やっていない事業を行うには、保育士がもっと必要で、そうなるとなかなか難しいといったニュアンスの発言があったと記憶しております。確かに困難と言い切ることはいかなものかと思しますので、表現を変えるか削除するなどしたいと思います。</p> <p>「まとめ」は、プロジェクトチームではなく、この委員会の場でこういう意見だと確認するための作業です。時間はありますので修正・追加は可能です。</p>
委員長	必ずしも今でなくとも、ゆっくり目を通して修正箇所をお話し下さい。
丹波委員（代：小塚）	障がい児保育についてですが、保育士であれば、心理など皆勉強してきているので、その先生方がその部分にある程度研修すればやれます。地域の子どもが入りたいとなれば、それに対する受入体制を市が整えていく支援も必要でないかと書いた方が良いのではと思います。
委員長	後でゆっくり読んで咀嚼をして事務局にお話し願います。それでは次の議事に移ります。
事務局	<p>資料9-1 「保育士の質の維持・向上」と「保育士の確保」について説明</p> <p>保育の質の向上といいましても、色々な側面があります。前の委員会で説明しお話をいただいた通り、保育そのもの、色々な保育の要望に答えていくということも一つだと思います。当然のことながら色々な保育ニーズに答えていくためには、きちんとした様々な経験・知識を持った保育士が必要になるということでこちらの表を作成しました。</p> <p>◆全国数値出典...平成 20 年実施 ベネッセコーポレーションアンケート調査</p> <p>この中で保育所の運営上の課題として保育所の施設長が何を一番に挙げているかという「保育士の質の維持・向上」です。公立保育所ではそれに合わせて2番目に「保育士の確保」が大切であるとの結果が出ています。</p> <p>◆保育士における正規・非正規内訳の説明</p> <p>◆北秋田市の保育士の年齢別内訳の説明</p> <p>公立保育所の正規職員は 50 代の割合が多くなっています。公立保育所の非正</p>

規職員は 20 代が多くなっております。私立保育所の正規職員も 50 代が多いのですが、公立と比較すると 30 代の割合が高いです。私立保育所の非正規職員は 20 代が半数近くを占めています。

公立保育所の正規職員で 20 代はゼロです。このまま年数がたっていくと、そこだけ穴が開くことになります。知識や経験が次世代に引き継がれていかなくなってしまふのではという恐れがある数値かと思います。

◆保育士の経験年数別の割合の説明

公立・私立ともに正規職員は 10 年以上の経験年数の方が圧倒的に多くなっています。非正規職員を比較すると、私立保育所は 5 年以上～10 年未満が多いです。10 年以上の正規職員の内訳を申し上げますと【公立正規：10 年以上～20 年未満 34.8%・20 年以上～30 年未満 42.8%・30 年以上 17.2%】です。【私立正規：10 年以上～20 年未満 42.9%・20 年以上～30 年未満 24.5%・30 年以上 18.3%】となっています。経験年数を見ると、私立の方が若い職員が多いと言えると思います。

◆保育学生の意識の説明

先ほど、若い人が少ないということで保育の質の継続が難しくなる恐れがあるかもしれないと申し上げましたが、表のような調査結果が出ています。

第 1 回の委員会でもお話しましたが、当市では 0 歳児の待機児童が増えてきています。申込みがあった所で、少し待っていただいて保育士を探して受入れをするといった事が各保育園にあります。保育士の確保自体が非常に難しくなっていると感じます。当然のことながら、年度途中で採用するとなれば非正規職員が多いと思いますので、なかなか保育士として来てくれる人が見つからない、ハローワークに求人を出しても申込みがないといった状況です。

反面、出生数は減少しており、入所数も定員割れの保育所があります。公立 7 園のうち 6 園が定員を満たしていません。保育士の数のバランスを今後考えていかなければならないのかなと思います。同時に、この先の入所数等を比較していかなければならないと思っています。

最近のことですが、国が臨時保育士の給料面に関して補助的なものを検討しようということになったそうです。少し明るいニュースかなと感じます。

資料 9-2 「保育士の研修体制について」の説明

平成 23 年度鷹巣中央保育園の研修体制を掲載しております。決して少なくない数の研修に交代で参加しています。参加した研修内容については、園内研修で他職員にも伝えているとのこと。私立の方でも、研修に積極的に参加されていると思います。当市では決して研修が少ないとか内容伝達が上手くいっていないということはないと思うけれども、職員数が少ない公立保育所に関しては交代で行くにも空けることができない状況もありますので、研修参加の工夫が必要なのではと思います。誤字訂正：保育減座→保育現場

資料の説明は以上です。資料 9-2 に関して補足等ありましたら、下山委員にお

	願いたします。
下山委員	<p>これは鷹巣中央保育園の例として挙げていただきましたが、私立保育所さんではもっとこれ以上に研修なさっていると思います。予算の関係もあって、秋田市など遠くなると旅費がかかるので、なかなか非正規職員まで研修に連れて行けないです。大館市や北秋田管内ですと、一緒に車で移動できるのでそういう形で2～3人、できるだけ非正規職員の先生達にも一緒に現場に行ってもらい、他の保育所を見てもらう機会を設けています。非正規職員の方が1人で秋田市の先進園に研修に行くことは難しいです。正規職員であれば予算もついてくると思うので、正規職員が増えると全体の研修もうまくできるのではと思います。その他に園内研修を実施しています。他園で得た技術など聞いた話を保育所内で活かすためにテーマに沿って年間勉強していますが、正規・非正規も同じく勉強するようにしています。北教育事務所で所内研修支援という制度があります。年に1回指導主事の先生に保育の内容を見ていただいて、保育内容や研修の進め方を指導していただいています。</p> <p>北秋田市が合併して保育所監査についても、県から市へ権限移譲されました。以前の県監査の際は、(県の) 保育指導員の方もいらして下さいました。保育内容については保育指導員の方は他市の良い所も知っているので私たちも気軽に聞くことができたし、指導を受けることができていたので、保育の質を高める機会であったと感じます。こども福祉班の中にその役割の人を置いて、公立に限らず私立全部の保育所も指導していただく。例えば研修会や他園に行った情報を流してもらったり、細かいことでも書類なり書き方なりやりやすい方法や、効率的な情報を流してもらえたら良いと思います。</p> <p>保育士の確保についてですが、毎年正規職員が退職していきます。今年度は1人ですが、来年度は3人など、どんどん退職します。正規職員の採用は平成15年度位からありません。年齢的なバランスについて事務局から話されていましたが、穴が開いているというか、20歳代の正規職員は採用がないので当然おりません。ほとんど50歳代など退職に近い方々の方が多い訳です。その方がやめていった時に、優秀な非正規職員の方々もいらっしゃいますが、バランスや北秋田市全体の保育所を考えていく訳ですけど、公立保育所としてどのような役割をしていくのかなと思います。もしかしたら残っていくという考え方をすると、障がい児保育など、公立保育所でやるべき保育を残していくとなった時に、受け継いでいく技術の中堅となる保育士がいらない状況になっていくのではないかと。正規職員の保育士を、1人2人でも雇っていただければ、それがいずれ質の向上につながっていくのではないかと思います。第1回委員会で、田口委員もおっしゃっていましたが、正規職員となって引っ張っていただく。どんどん退職して正規職員数が少ない状況になっていくと思いましたので、お話させていただきました。</p>
委員長	非常に大事なお話だと思います。必ずしも保育士に限らず、私自身の経験上お

	<p>話しますと、専門職が足りなさすぎると思います。一般職で入庁しますので、それ相応の教育を受け専門的に学んだ方、福祉行政で行けば社会福祉士や介護福祉士等の国家資格を取得している職員が少なすぎると思っています。行政の中で指導できるかと言われれば非常に難しい。これからの市で、将来的に人材確保が必要だと思います。</p> <p>素朴な疑問ですが、「質の良い保育士」とはどのような方ですか。管理者の立場から見て、保護者や入所児童から見ての話をお聞かせください。</p>
出川委員	<p>大変大きな問題が提示されていると感じています。県中央・大館市でも若干そういった研修を企画しているということです。北秋田市の場合、保育士の質の向上のためにどのようなことをされているのか私には見えません。合併前に、旧町4地区の保育士研修のような組織があったように記憶していますが、合併してから保育士研修会があるということが耳に入らなくなってきました。研修はあると思いますが、あるのかないのか分かりませんので質問を付け加えます。質の高い、と言うことは経験年数だけでは言えないと思います。若くても元気があって子ども中心に考えることができ、子どもに慕われている新卒の職員もいますし、30年40年近く保育士を経験しながら逆の職員もいます。経験年数が長いから立派な保育士とは言えないと思います。</p> <p>保育所の周辺でどのような研修が行われており、保育上の知識や技能、体験を身につけていくかということが、質の高い保育士を生んでいくと思います。私には研修について耳に入ってきておりません。私の勉強不足で、園長や主任の先生方と話をしていない面もあるので情報が入っていないということもあるかもしれません。そうだったら申し訳ないと思いますが、実態等をお話しいただきながら、非常に大事な検討課題だと思いますので、管外研修も大事ですが管内研修や園内研修も大事になります。合併以降、公立・私立の間に乗り越えられないような壁があるように感じています。どの程度、公立・私立の研修交流がなされているのか教えていただきたいと思います。</p>
下山委員	<p>正規職員だから質が良いということではなく、人柄もありますが、園の目標にみんなで研修等で目標に向かって保育するわけです。それを受け止めて、前向きにみんなで研修していく時に、研修していく中で「私は素晴らしいのよ」と思ってしまうと、保育士としてのスキルの向上は止まってしまいます。「これよりもっと良い方法がある」とみんなで研修して向上心をもってどんどん進んでいける保育士が良いと思います。自分のためでなく、子ども達が生きる力を得ていくためにどういうことが大切か。例えばグループ活動などみんなで指導していく訳ですが、保護者とのやり取りもあります。朝元気に受け入れたら、帰りも元気に笑って帰らせることが出来るような保育士が質の良い保育士と言えると思います。経験年数が長ければ素晴らしいとは思いませんし、少ないからダメとも思いません。これまでの経験を若い人に伝えていき技術を引っ張っていく。そういった面では正規職員の方が立場が安定しているので、研修なりに</p>

	<p>行ってやる気が起こるのでそうしていますが、非正規職員の中にも素晴らしい職員は沢山います。何年たってもだめな職員は作らない、と園長として思っていますので、そういう職員には指導しています。皆で良くしていくものです。</p> <p>交流については、大館市・北秋田市・上小阿仁村で勉強会を開催していましたが、規模が大きくなりすぎたこと、保育協議会の流れなどもあり、大館市が離れました。以降、北秋田市・上小阿仁村では継続して開催していますので以前と変わりはないと思います。公立・私立は関係なく出席しています。綴子保育園も参加しています。県から年 1 回は指導主事の先生がいらっしゃいますので、研究等があたっていれば 3, 4 回と勉強しています。保育士会の公立・私立の区別はないと思います。私立は別枠で勉強会がありますし、公立でも言えます。全体で勉強はしています。</p>
出川委員	<p>先ほど予算の話がありましたが、研修費はどういう状態でしょうか。予算の執行状態は確認しておりますし、時折指摘しています。研修費が大幅に余っているのかと。研修費 10 数万単位で研修費を持っていますが、園によってだいぶ違うと思います。研修については年何回も話をしています。</p>
下山委員	<p>予算が多いからでは。</p>
出川委員	<p>多いからではなく、研修に出ていないんです。なぜかという、出張が多くなれば代替保育士がいなかったり、産休代替の職員が間に合わないとか、いろいろな条件が重なってなかなか研修できないということが当園の実情です。</p>
委員長	<p>保護者から、子どもから見た「良い保育士」について聞きましょう。</p>
佐々木委員	<p>「良い保育士」とはちょっと違うかもしれないのですが、質ではなくて、防犯システムはどれもハイテク化しています。実際保護者からのメールサービス要望が多く、今回私たちも導入しました。管理職の先生たちは年齢が上ですので、園長先生が導入したいと言うことでパンフレットをお持ちしましたが、「読んでも分からないので会長さんまず読んでください。その内容を保護者にも伝えてください」ということでひと悶着ありました。実際導入することになったのですが、導入の仕方が分からない・どのページを開くか分からない。入れたはいいんですが、有事の際、操作するのは先生方です。実際システムを使えるのかなと一抹の不安がありましたので、システム導入した園長先生で集まって時代に沿った IT 関係の勉強会はどうなのかなと思いました。</p>
金澤委員	<p>保育園の外部的要因の環境だと思います。今の IT 関係の話でも、保護者からしてみれば「この先生に任せて大丈夫だな」と安心感もありますし。内部的と考えれば、子ども達が「毎日楽しく保育園に行きたい」と思えるような環境をつくっていただければ、この先生好き・嫌いとか、家に帰って話すこともあります。その辺が質の向上に関わってくるのかなと思います。</p> <p>話が少し戻るのですが、正規・非正規の違いは仕事内容的にも根本的に違うのでしょうか。保護者から見れば、どの先生が正規・非正規とは分かりませんので。</p>

下山委員	<p>根本的な違いはありません。そのように指導しておりません。特に東保育園の場合は、半分以上非正規職員です。正規職員同様経験もありますし、一生懸命頑張ってくれています。園長としては、「申し訳ないな」と感じます。同じ仕事をしているので同等の対価があれば、モチベーションもあがると思います。素晴らしい保育士さんたちです、非正規職員でも担任をもっている方もいますし。正規だから非正規だからということがないように、園内研修を行っています。やる気の感覚でいえば、非正規職員であっても賃金があがるなどのシステムがあれば良いなと思っています。</p>
委員長	<p>給料が違うだけです。公立・私立とも財政的な問題もあるかと思いますがこの資料を見ると、あまりにも公立保育所の正規職員が高齢化していると感じますね。これは大きな問題だと思います。全国的に見ても、公立保育所職員は約半数が10年以上の職員ですが、北秋田市は約94%がそうです。何らかの方法で解決していかないといつまで立っても非正規職員が増えていくことになると思います。より良い保育士になるために研修が大事だと皆さんからお話がありました。次の議事に進んでよろしいでしょうか。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>下山委員が監査についてお話しされました。私は12月からしゃろーむにお世話になっていますが、先生からの書類を見たときに違和感を感じました。以前は保育指導員が児童票・個人記録までチェックしていましたが、今は市役所から職員が来て見ていくが、数字等を見るけれど保育の内容までは入りませんと話を聞きました。社会福祉主事など資格を持っている職員がいると思いますので、有資格者を長く貼り付けるなどしてはどうでしょう。福祉は継続性が必要ですので専門職をいれて、これから子ども子育て三法も出る訳ですので、保育の中身も保育・教育の観点から保育士の質、意識改革もしていかなければなりません。そういった事を含めてこれからの監査の中身を考えていかないといいないと思います。</p> <p>確かに非正規職員はとても多いです。大卒者の大部分が不安を抱えている現状から、これはやはり身分を保障してあげることが、北秋田市で子育て支援に力を入れる話している以上は、働いている保育士の身分も保障してもらいたいと思います。民間は財政的に、園舎修復・建設などは無いお金でやらないといけません。これからの在り方を真剣に取り組んでいかないとならないと思っています。これからきちんと話し合いできればと思います。</p>
委員長	<p>次に進みたいと思います。「効率的運営について」説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料10-1「保育園効率的運営の手法について」の説明</p> <p>保育園に限らず公の施設は運営の効率性を求められています。この資料は『公立保育園の効率的運営』という面から見て作成した資料であります。</p> <p>1. 運営委託</p> <p>これまでと変わりなく、市財政的な改善は見られないと思われます。施設管理も市が行うこととなります。通常運営委託は契約期間が短いものですから、</p>

	<p>委託先職員の雇用確保面には委託先が変更になると雇用が打ち切られてしまうので、継続性がないというデメリットがあると思われます。</p> <p>2. 指定管理者制度</p> <p>1と類似する点はあるが、施設管理も含めて代行していただくということになります。財政面では大きな変化は見られるものではないです。指定管理者で安定した運営ができるかと言うとそうでもなく、通常は5年程度の指定期間を取ります。ケアタウンや市民病院は長めの指定期間を取っていますが、市の財政的メリット、雇用面の不安等は1の場合と同じです。</p> <p>3. 民間移管</p> <p>いわゆる「民営化」です。保育園そのものを民間に移行するということです。市として直接的に関わることはなくなります。市財政的メリットもかなり見込めますので、その分のメリットを新たな保育のために使っていくことも可能になってくると思います。</p> <p>ここにはありませんが、公立保育園においては「統合」も手法の一つではないかと思います。入所人数に対して相対的に経費がかかってしまうところを、2か所ないし3か所の保育園を1つに統合するといった手法もあります。</p> <p>資料10-2「同一保育所が公立の場合と私立の場合での市の負担額の比較」の説明</p>
委員長	<p>市の立場から見た効率的な運営ということで明らかに民営化した方が良いでしょう。市の立場ということは、市民の立場ともいえます。同じ保育であるならば、市の持ち出しが少ないということは良いと思います。事務局の補足説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料10-2を図で説明いたします。(ホワイトボード利用)</p> <p>全国的に公立保育所の民間移管が増えています。北秋田市の民間保育所が受け入れてくれるかどうかが問題です。ある程度の規模がないと経営が成り立ちません。前回もありましたが、様々なサービスによって入所児童を集められるかどうか、サービス提供にはお金がかかります。浮いた財源をサービス提供、保育士待遇改善、建物建設の補助にあてるなどのやり方があると思います。実際に行っている市も多いです。</p>
委員長	<p>数字だけ見ますと、そうなるということですね。民間移管する場合は、資料のとおりの方法があります。私の所でも指定管理を受けています。自身が市役所職員だった時も指定管理はたくさんありました。指定管理制度を実際にやってみての感想ですが、必ずしも立派な制度ではないと感じました。けれども法律ですので守らないといけません。これまでの指定管理はそれで、これから指定管理を行うのはどうかなと個人的に思います。市にとっても、経費節減等書かれています但し節減にはなりません。責任だけ残ります。受けた方も、責任感希薄であります。「最後は市だ」という気持ちがあります。この三つの手法を見て個人的に感じたのは民間移管しかないのかなと。財政的な流れを見てもそ</p>

	<p>れが良いような気がします。それが良いのかどうか。その場合、今ある保育園をただ移管するのか、それで保てるのかといった疑問はあります。全体でみると出生数も減少しています。10 年先 20 年先を考えると、既存の保育所も二つ三つと減っていくと思います。今どう考えていくか。私はこう思いますが、皆さんの意見はいかがでしょうか。</p>
丹波委員（代：小塚）	<p>委員長がお話した通りだと思います。お話に水を差すわけではありませんが、当時やはり公募か非公募かという話が出ました。全て指定管理でということではなく、この施設とこの施設は公募か非公募かという観点が当時は認識がなかったかもしれません。全国の事例を調べたらそうでした。</p> <p>指定管理で 5 年 10 年というのは、働く人の身分も精神的な部分も、保育園にはもっともっと職員が入ってこなくなります。手法としては民間移管の手法しか残っていないと思います。子どもも減少していきますので、これからは保育園の在り方はもちろん、地域型保育、家庭保育、小規模多機能保育ですとかいろいろな種類が出ています。阿仁合保育園のように、大きな施設に入所児童がちょっと、ということが現実です。保育の在り方、施設の見直しの仕方もいれながら北秋田市の保育の在り方を慎重に検討しながら、民間移管を取り入れるような形になるとすれば職員の身分の保障もあわせながら考えて行って、保育の質を高めるという方向に持って行かなければならないと思います。この検討委員会は重要な責務がある委員会だと思っていますので、時間をかけながらも少しやっていきたいなと思いました。</p>
事務局	<p>配布資料「指定管理者制度による保育園運営状況について（鹿角市）」の説明</p> <p>冒頭でお配りした資料は、鹿角市から頂戴したものです。近いところの先進地を視察したいと要望がありましたので、ある委員から推薦のありました鹿角市を選びました。鹿角市では『鹿角市こども未来事業団』という法人を設立して、指定管理を行っています。昨年は、1 か所民間移管した保育園の改築を実施しています。我々にとって参考になる事例だと思います。1 月 30 日に現地視察を行いたいと考えています。事務局から説明申し上げるよりも、先行している自治体の例を見てどうなのか聞いてご判断いただきたいと思います。大変難しい問題ですので、時間をかけてご議論いきたいと思っています。</p> <p>小塚委員からお話がありましたが、市が楽になればそれでいいのかということではなくて、一番大事なのは子ども達です、保護者の意向、保育園の経営、保育士の待遇・身分、保育関係者ではないすべての市民にとって良いことかどうか考える必要があります。また、子どもの気持ちと保護者の意向が全く同じかということとちょっと違う気もします。保護者には都合が良いけれども、子どもにはそうでない場合もあります。</p> <p>市としては、先ほど挙げた全てが納得できる方法がないか考えたいです。難しいことではありますが、その方向を探していきたいと思っています。</p>

委員長	<p>全てがいい方法というのはありません。必ずどこかに歪みが出ます。先ほど小塚委員が公募の話をされましたが、ある施設が全国に公募を出しましたが1社も応募がありませんでした。それだけ魅力がないということです。これまで地域で積み重ねてきたものがあり地域が崩壊するといった問題もあり、現在も残っている。お金もかかっています。保育園もおそらく、その地域にとって非常に大切な施設だと思います。全市民の立場で財政的な面からみると負担削減はいい事ですが、地域としては昔からあるものをなぜ無くすのかと言うかもしれない。私は将来的に 10 年 20 年後をみて、市として決断すべきだと思います。学校再編とは違うかもしれませんが、保育園も程度や時期の問題もあると思います。世間は安倍政権に代わり景気が好転するそうですが、世の中が変わってくれば別ですがこのままの状況で行きますと、そのままにしておくとかえって痛みがひどくなると思います。市の責任で決断すべきだと思います。</p>
出川委員	<p>鹿角市を選定案としたのは、どこが参考になると考えられて視察先として選定されたのですか。</p>
事務局	<p>鹿角市の状況について、どういった内容・経緯かは事務局も良く分かっておりません。視察に何日もかけることもできませんので、最近の事例で鹿角市さんが一番適当な視察先と判断しました。鹿角市からは本日メールが入ったものですから、詳細までは分かっておりません。先例を参考に今後の計画を立てていければ良いと思い、鹿角市を選定しました。</p>
出川委員	<p>民営化ありきではないということですが、民営化を検討するということが視察な訳ですね。そのあたりの考え方です。というのは、これまでのように、阿仁部で行けば大阿仁保育園は入所児童も減ってきていますからね。このままの状態でも存続できるかどうか色々な問題があるわけですが、いずれ旧鷹巣町は公立・私立、旧阿仁町は全て公立です。従って、何が財政を逼迫させているのか、その所をきちんと説明していただかないとですね、なぜ民営化が話題になるのか、これまでと同様に公立保育所として存続して良いとの考え方があるのかどうか。どうしても民営化しなければ北秋田市で難しいという前提のもとにこの検討をするのか、その辺りがはっきりしないものですから我々法人としては非常に言いにくいと私は感じています。その辺りをお話いただき、民営化の検討の土台の資料にしてみたいのですが。</p>
事務局	<p>この検討委員会の中で、視察をしたいと最初におっしゃったのは出川委員です。ご記憶と思います。そういうことで近いところで選定させていただきました。委員がおっしゃいましたが、民営化ありきではありません。しかしながら、それを現実的に考えなければならない時期になってきていることは確かです。ただしもっと他の方法はないか、うまくいっている自治体はないか。</p> <p>事務局には山のような資料があります。県内外の失敗例・成功例がたくさんあります。直接資料を貰ったり、話を伺いにも出かけています。経営者の皆様もそれぞれ情報をお持ちだと思います。資料を見るだけでは実際が分からない</p>

	<p>ことが非常に多いので、直接お会いして疑問をぶついたり、アドバイスをいただくことができるかもしれません。</p> <p>研修については、白紙の状態でも臨んでも良いのですが、あまりに不勉強で失礼な質問もいけないので、あらかじめ鹿角市の状況を把握したいということで資料を頂戴し、皆様にお配りしました。</p>
委員長	<p>研修については出川委員の発言により実現するわけです。ここが良いか悪いかということを行ってみないと分かりませんので、まず見てみるということです。良かったら良いところを見れば良いと思います。</p>
出川委員	<p>我々は昨年の秋にこちらで研修しました、七日市保育園の理事長・園長を含めてです。およそ 2 時間ほどお話を伺っています。この資料に基づいた実態をお話いただきました。</p>
委員長	<p>出川委員は見ているそうですが、我々は見えていません。見た結果が一致するかは分かりませんが、まずは見てみるということです。もしだめだったなら、もっと良い所があるかもしれませんし、色々な所を見たら良いと思います。色々あるかと思いますが、良いところ・悪いところ、総合して、必ずしも真似するわけではありませんし、民営化するかどうか分かりません。流れを見ただけでの私の意見は先ほど申し上げたとおりです。</p>
三上委員	<p>この会議ですが、市の保育の中長期的な視点でお話いただいていることは理解していただいていると思います。その中に民営化も 1 つのテーマとしてあげており否定するものではありません。もっと良い方法があれば柔軟に変えることもできますけれども、テーマとして話をしていかなければ進んでいきませんので、その過程の中で資料を作成いただいています。旧 4 町が合併して市になったわけですが、合併前はそれぞれ旧町の事情で保育園を運営してきました。市になって、これほどの数が必要なのか、入所児童数も見ながら統廃合も当然考えなければならなくなってきました。その過程で小塚委員がおっしゃったように小規模保育や家庭内保育など色々な手法がいわれておりますが、その際に責任はどこにあるのか、これについてきちんとやらなければ市としても取り組む方向性を出していけないと思いますのでご審議いただきたいと思います。</p> <p>先ほど監査のお話がありました。これについては、県から権限移譲する際に、色々指導を受けながら今は市職員が行っています。不足な部分もあったかもしれませんが、各園から意見をいただき、改善すべき所は改善したいと思います。新年度からでもできるように取り組みしていきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>我々に与えられたのは、子育てにかかわる問題でありますけれども、市民のひとりとしては全体も考えなければならぬと思っています。合併して 10 年経過すると、国からの交付が 20 億円なくなります。現在 200 億円、その 1 割が来なくなるのです。そのようなことから全体の仕組みを考えなければならぬと思っています。</p>

	<p>30 日に鹿角市を視察するということですので、皆さんこぞって参加して、色々勉強していただき最終的にこの検討委員会に反映させられれば良いと思っています。日程は 30 日で決定ということですか。</p>
事務局	<p>鹿角市に依頼し、その日を用意していただきました。隣接して花輪さくら保育園という 220 名の大きな保育園があります。事業団の方、市担当者、保育園担当者の方が説明下さいます。また、鹿角市では昨年大湯保育園が建設されております。完全に民間移管（社会福祉法人 愛生会）の形で保育園を運営しています。その経緯についても説明を受けたいと思います。</p>
事務局	<p>次第 4 のその他に入っていますが、いずれこれから視察参加の受付をいたします。</p> <p>今後の検討委員会の日程についてですが、議会が早まっている関係もあり若干日程を変更したいと考えています。第 4 回ですが、2 月 22 日予定を 3 月 19 日に変更したいと考えております。1 月ずれますので、第 5・6 回も後にずれていくと思います。まだしっかり日にちを決めていませんが、第 5 回は 4 月中に、第 6 回は 5 月に開催したいと考えていますのでよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>第 4 回 3 月 19 日、第 5 回 4 月中、第 6 回 5 月中ということですね。</p> <p>今日もちょっと時間がずれましたがとも終わりたいと思いますが、よろしいですか。これで終了いたします。</p>